

とんぼりクルーズ

道頓堀川を上り下りするクルーズは、沿岸の人気のショッピング & ダイニングエリアをこの街にまだ自動車が走っていなかった時代のノスタルジックな視点から眺める気づきに溢れた体験が楽しめます。

大阪は、古くから日本列島の中心近くの海路と陸路を結ぶ交通と貿易の要衝でした。長年の間に、大阪の自然の河川は水路で接続され、物資や人をより円滑に移動させるための水路網が発達しました。近世には大阪は「八百八橋の街」と呼ばれるようになりました。大阪の水路は 20 世紀に入っても荷船や遊覧船で賑わっていました。

しかし、第二次世界大戦終戦後、モーターを利用した交通手段の普及に伴って、水上交通の多くが道路交通に移行し、大阪の水路は市民生活の中心ではなくなっていました。この変化に逆行し、「水都」大阪のアイデンティティを取り戻すため、大阪市は 2001 年に市民と観光客に再び水辺の楽しみを味わってもらうためのキャンペーンを開始しました。

水辺から見る大都市

短いリバークルーズを通じて、新鮮な視点から大阪の街並みを眺めることができます。昼間は、川や水路は太陽の光を受けて輝きます。夜になると、水辺は街灯やネオンサイン、港に沈む赤や金色の夕日を映し出し、神秘的な雰囲気になります。

クルーズツアーには、中之島沿岸の象徴的な建築物をめぐるコースや大阪湾を周遊するコース、大阪城を通り過ぎて内陸の水路に入るコースがあります。人気のツアーのひとつは、大阪弁のガイドの案内を聞きながら、戎橋をくぐり、グリコの「ランニングマン」などのランドマークを通り過ぎる道頓堀川沿いのクルーズです。

道頓堀の橋

道頓堀川をクルーズしていると、かかっている橋の多彩さに驚かされます。17 世紀初頭に徳川幕府が公共事業として建設した日本橋を除くと、道頓堀川に架かる橋はいずれも、より効率的に物資の運搬や集客を行おうとする民間人によって建設されたものです。

戎橋はもともと、1615 年に道頓堀川が完成したのと同時期に架けられました。この橋は近世の観光案内や絵図によく登場し、現在も戎橋周辺は地域の中心としてネオンに彩られています。戎橋は 2007 年に架け替えられましたが、新しい橋には多くの観光客に対応できるよう中央に円形の広場が設けられており、欄干も大阪の食文化を表現してお好み焼きの口

テのような形にデザインされています。

一方、浮庭橋は 2008 年に堀江地区と道頓堀川の南岸を結ぶ歩道橋として架けられた新しい橋です。「浮庭」とは「水に浮かぶ庭」という意味で、この橋はまるで水上に吊り下げられた公園のようにつる植物などの植物に覆われています。